

2009年1月4日(日曜日)



地球温暖化や身近な生き物の減少など環境問題が注目を集めるなか、自然を守っていこうとする機運が高まっています。本県では、昨年、新しい環境基本計画を策定し、また、全国植樹祭に向けた県民運動が各地で展開されています。

平成二十一年の新春を迎え、西川知事と、今年六月に開催される全国植樹祭の県民運動分野で活動している県森林組合連合会の坂東秀夫さん、小浜市で環境保全活動を行っている西野ひかるさんが、「本県の豊かな自然を守り育てていく活動」について話し合いました。

全国植樹祭 6月7日に開催

—いよいよ今年六月に全国植樹祭が開催されますね。

知事 そうですね。あと五か月あまりになりましたが、今年六月七日に、第六十回という節目の全国植樹祭が開かれます。

この大会には、五年前の福井豪雨からの見事な復興や身近な福井の自然をみんなに知ってもらうこと、環境問題について考えてもらおうといった狙いがあります。

式典には、天皇皇后両陛下をお迎えして、『ウスズミザクラ』などの木をお手植え・お手播きしていただくとともに、朝のテレビドラマで活躍された貫地谷しほりさんが、高校生と一緒に司会をするなど楽しいイベントになると思います。

県内の中学生のアイデアで誕生したシンボルキャラクターの「ふっくりん」にも、植樹祭で大いに活躍してほしいですね。

昨年、県民の方々から参加者を募集したところ、二千人を超える応募があるなど皆さん非常に関心が高いようです。また、全国から一万一千人くらいの方が参加する予定ですので、大いに盛り上げてほしいと思います。

三つの県民運動に参加しよう

—坂東さんは、全国植樹祭を盛り上げるための県民運動をされているそうですが。

坂東 私は全国植樹祭の基本構想づくりの段階から参加し、今は県民運動の専門委員として、県民運動をどのように定着させていくかについて企画し、実行しています。県民運動は身近なところから始められる三つのものがあります。

一つ目は、「健康長寿のふくい自然を知り伝えよう」運動で、自然の中でのウォーキングなど、身近な森や山に入って、自然の素晴らしさを再発見してもらおうというもの。

二つ目は、「元気な森をつくろう」運動で、「木を植え、木を育て、木を使う」ことで、森林の循環、機能の活性化を通じて、元気な森をつくるという



ばんどう ひでお
坂東 秀夫さん

もの。

三つ目は「花と緑にあふれるふるさとをつくろう」運動で、地域で行われている花の植栽活動などを通じて、美しいふるさと、誇りのあるまちづくりを目指そうとするものです。

あわら市在住。福井県森林組合連合会 代表理事専務。
第60回全国植樹祭実行委員会専門委員 県民運動の定着について企画

—こうした県民運動に参加する上でのポイントはどこでしょうか。

知事 間もなく春になるとクリーンアップ・フラワー大作戦がありますし、川をきれいにする運動とか、身近なところから日常的に運動を広げていくことが大事ですね。

—身近なところの運動ということでは、西野さんは若狭で地域ぐるみの活動をされているそうですね。

西野 福井の海はとてもきれいで自然がたくさん残っています。ただ、小浜湾は湾の入口が狭くて海水が入れ替わりにくく、市街地周辺が汚れて魚が少なくなっています。

小浜の海を昔のようにきれいで、魚があふれる海に戻すため、小浜水産高校が中心になって、海にアマモという海藻を植える活動「アマモマーメイドプロジェクト」を始めました。アマモのキットを市民の皆さんに育てていただいたり、小中学校で出前講座を行う活動を一緒にやり始め、五年になります。

海の世界というのは、陸に住んでいる私たちの暮らしや意識の現れです。まず、関心を持ってもらい一緒に海をきれいにしていく、そうすると魚を育てる効果もあるので、このような活動を増やそうとしています。

新環境基本計画の推進

みんなで植樹祭を成功させ
美しい環境を守り育てよう



にしかわ いっせい
福井県知事 西川 一誠

—こうした中で、昨年、新しい環境基本計画が策定されましたね。

知事 環境を守る活動に関心はあっても実際に行動に移すのは少し時間がかかります。そこで、できるだけ参加する人を増やそうと、新しい環境基本計画を策定しました。

この計画は、福井の自然環境を守る、生活環境、環境教育など人づくりといった三つの分野で、例えば、クルマに乗り過ぎないとか、ものを大切にする、食べ残しをしないといった、いろいろな身近なプロジェクト、全部で十のプロジェクトを進めたいと思っています。

—このような身近なところではどのようなプロジェクトをみて、どのように感じますか。

西野 自然というのは地域ごとに全く違っています。その土地の人がその自然を一番良く知っていますので、地元の方が中心になって活動するのが一番適しています。そして、動き出さないとわからないことばかりですので、まず一歩、始めてみるのが大切ですね。

私たちが海で活動していると、山、川、里全てが海につながっていると強く感じますので、そういうところも大切にしながら活動していきたいと思っています。

—坂東さんは、山と海がつながっていると実感されますか。

坂東 山、川、海は密接につながっていると言えます。特に最近、漁業関係者の皆さんと一体になって森林整備を進めています。

また、手入れをしないと山が荒れてしまうため、間伐(木の間引き)をして、伐った木を使っていくことが非常に大切です。私たちも、試作で、伐った木を使った道具を作っていますが、県でも木工教室で親子で木製プランターを作るなど「木づかい運動」を展開してもらっています。これからもどんどん福井の木の良さを知ってもらい、是非、利用していただきたいと思っています。

—今後、この計画を推進していくために、県全体としてどのような取り組みが必要になってくるのでしょうか。

知事 一人ひとりの県民の方、グループ、行政、企業、みんなが力を合わせて、お互いに話し合って行動する県民会議を設けて、日本一、活動が活発な県になるようにしたいですね。

また、これから卒業や結婚など人生の節目のときに、環境にやさしい、あるいは環境を守る行動をする運動も重要です。そして、自分だけではなくて、周りの人に普及しようとする活動普及隊を結成して、こういう活動を盛り上げていくことも重要だと思っています。

これまでも環境を守ろうという取り組みしてきましたが、力を合わせないとなかなかパワーアップできません。みんなで盛り上げ、力を合わせることがこれから極めて重要だと思います。

今後の抱負

—身近なことからまずやってみることが大事ですね。最後に今後の抱負をお願いします。

西野 こうした活動をしていると、子どもたちが自然の中で伸び伸び遊ぶ環境を取り戻したいという声をよく聞きます。安全確保の面からも大きい子が小さい子を見ていくような関係づくりができないかと思っています。

今、小浜水産高校の生徒が環境講座に行ったり、シュノーケリング教室を開いたりしていますので、大人も大学生もいろんな方を含めて、体制づくりをしていきたいと思っています。

坂東 今年六月に開催される全国植樹祭をきっかけにして、緑の大切さや森林の果たす役割を県民の皆様に知っていただきたいと思います。

三つの県民運動についても県内各地で定着させていきたいですし、今後も継続的な取り組みとして、多くの県民の皆さんに参加していただくよう努力していきたいと思っています。



にしの
西野 ひかるさん

小浜市在住。環境保全グループ「アマモサポーターズ」代表。
小浜水産高校が海の環境保護のために始めた「アマモマーメイドプロジェクト」を支援

子どもたちが自然の中で
伸び伸び遊ぶための環境を

知事 まず全国植樹祭を是非成功させたいですね。また、新しい環境基本計画をつくりましたので、みんなで力を合わせて福井の美しい環境を守り育てる活動を広げたいですね。

今、厳しい景気・雇用情勢が続いています。力を合わせて雇用や中小企業対策を進めるとともに、昨年末、北陸新幹線についての方針が出ましたので、一日も早く、敦賀まで整備されるよう全力で取り組んでいきます。

子どもたちが、希望を持って新しい福井を支えていけるように頑張っていきますので、皆さんの応援、ご協力をお願いします。